



ただら

第 5 号
島根学習センター内
島根同窓会
発行者 竹下靖彦
2015年7月発行

島根同窓会 第3回通常総会を開催

平成27年4月25日(土)午後3時10分より第3回通常総会を会員16人が出席して開催した。

通常総会に先立ち第1部として、午後1時30分より例年通り総会記念講演を開催した。記念講演はテーマを「介護保険制度について」とし、講師は松江市福祉保健部介護保険課長岡公寿主幹(介護保険認定係長)と中原美幸主任



(介護保険給付係)を招き、介護保険制度の仕組みと具体的認定作業と認定後の保険給付について、松江市での事例をもとに説明を受けた。その中で、本年4月よりの制度の見直しに伴う給付と保険料改定(大幅引き上げ)が実施となり、施設入所の困難さが一段と高まることが話題となった。

会場の参加者からは、自身が遭遇している事例をもとにその対処方法について質問が出され、講師よりそれぞれ対処方法について有意義な教示を受けた。

第2部の第3回通常総会は、午後3時10分より会員16人(20%)が参加して開催した。今総会は設立より2年間の報告と3年目の活動計画、任期満了に伴う初めての役員改選が主たる任務であった。

総会には来賓として佐々学習センター所長、足立前所長より「この間における同窓会が果たしている役割に感謝するとともに、更なる発展で在学生に対する支援活動をより一層お願いしたい」と挨拶を受けた。

総会議事は、第1号議案の平成26年度事業報告、第2号議案の平成26年度決算・監査報告、第3号議案の平成27年度事業計画案、第4号議案の平成27年度予算案、第5号議案の役員改選まで、執行部提案すべてが満場一致で承認された。役員改選では第一期役員全員が留任し、新たに理事2人を増員し14人体制となり、更なる執行体制での船出となった。

新年度早々の事業では、設立僅か3年目を迎える島根同窓会が、同窓会連合会において小さな県での活動が評価され、5月の連合会創立25周年記念シンポジウムのシンポジストに指名され、岡部学長同席のもとで、同窓会活動と学生支援について報告することが決定したと紹介した。(14頁参照)

会長挨拶

設立5周年を目指した同窓会活動へ

会長 竹下靖彦



島根同窓会の皆さま、その後お変わりございませんか。

早いもので本年は同窓会設立3年目を迎えての船出となりました。この2年間で改めて振り返りますと、実にあっという間に過ぎた歳月でした。この2年間の活動から顧みますと同窓会の果たす役割が問われ、今まで以上に会員の期待に応えるため、役員の結果と実行力が試されることとなります。

新年度におきましても、島根学習センターと学生サークルとの友好関係を従来どおり堅持するとともに、同窓会としての独自活動もより発展させたいと考えています。具体的には、会員の皆さまとともに学習センター行事である学位記授与式、入学者のつどい、各種の公開講座、だんだんサロン、面接授業、卒業生、在校生との懇談会、卒業研究発表会、学生募集、センター開設20周年記念行事の準備等に積極的に協力・支援に取り組みます。

一方、同窓会活動としては年2回の卒業を祝う会、講演会および学習会、各種講座、地区ごとの卒業生と在校生との懇談会、役員会の開催、会報の年2回定期発行、会員名簿の整備発行、同窓会連合会および中四国ブロック同窓会との交流会、地域貢献活動、さらに課題としていたホームページの立ち上げ等に取り組みます。数は力であるため会員増加の取組みは、今年度中に100人を目指して積極的に卒業生の勧誘に取組み、島根学習センターの支援も受けて、三桁の会員実現に邁進します。会員皆さまの卒業された知人に加入を呼びかけ、ご協力を切にお願いします。

新しい取り組みとしては、学習センターと協力してセンター開設からの卒業研究・修士論文について、16人の同意を得て冊子としてまとめるための準備に取り組みます。

東部・県外地区における卒業生・在学生支援のため、公開授業、面接授業、講座などの開催に向けて学習センターと協議の上、開催が実現するよう具体的な企画と実現に取り組みます。

新しく4月より「オンライン授業」がスタートします。この授業はこれまでの放送授業では放送枠の制約があるため、オンラインとすることで拡大できます。しかも講義は一方通行にならない講義方式となります。そのため履修するにはどうしてもパソコン操作が必須となるため、センターと協力しながらパソコン講習会開催に取組み、オンライン授業を多くの学生が利用できるよう学生のスキルアップに貢献したいと考えています。

今こそ日本国憲法を真剣に考えてみませんか

今私が今最も憂慮していることは、放送大学で最初に履修した最高法規である日本国憲法が、安倍晋三内閣の下で昨年7月に立憲主義を否定する集団的自衛権行使容認の「閣議決定」で、積極的平和主義を唱えて「憲法解釈変更」を宣言する中、自らが推薦した憲法学者からも「違憲」と断じられた。さらに防衛大臣の「憲法を法律に合わせた」との本音が吐露されました。憲法があつての法律であるはずですが、これは日本国憲法99条で大臣に課せられた、憲法尊重擁護義務に反する重大発言であります。

私は戦後昭和22年小学校に入学し、「あたらしい憲法のはなし」を学んだ記憶がありますが、今日では随分と勝手な解釈行われています。今こそ戦後70年日本国憲法の神髄を国民皆んなで共有したい。

「オンライン授業」の導入に当たって

島根学習センター所長
佐々有生



本年度の放送大学島根同窓会通常総会が、4月25日(土)に開催されました。本学習センター同窓会の活動は3年目に入りますが、昨年度の事業報告で、多彩な取組を展開していただいていることを改めて感じます。そして、総会での本年度事業計画などの議案等の承認を経て、いよいよ本年度の本学習センターの実際的な活動が始まるという身の引き締まる思いがします。

本年度同窓会の事業計画には、三桁の会員数をめざし、地域ごとの懇談会の開催等により卒業生及び在学生の積極的な交流を図りながら「自覚と誇りを確立すること」が掲げられました。そして、早速、5月23日、出雲市で同窓会主催による「消費生活市民講座」が開催されました。日頃、卒業生及び在学生の皆さんが放送大学の学びを、自らの豊かに生きる力にされたり、また、こうして地域に積極的にはたらきかけられたりする姿に接するたびに、センターの果たすべき役割・支援の意味・大きさを感じます。

さて、放送大学では、本年度、新たに「オンライン授業」が導入されました。「オンライン授業」は、インターネットに接続できる環境にあれば、場所を問わず自分の都合のよい時間に納得のいくまで繰り返し学習できることなどから、学習の「利便性」・「学習効果」の向上、また、教育手段としての「双方向性の確保」・「授業内容の改善」等が期待されます。本年度は2科目の開設ですが、当面、大学院科目及び資格系科目に重点を置き、学部科目についても今後速やかに検討をすすめることが必要として、平成32年度までに100科目の制作及び着手に取り組む方針が掲げられています。

平成28年度は当学習センターが開設20周年を迎えます

島根学習センターは、次年度平成28年度開設20周年を迎えます。本センターでは、同窓会との連携により、卒業研究発表会(博士後期課程研究を含む)の充実等を図るとともに、節目の一つとしてこれまで本センターの学生の皆さんが積み重ねてこられた知の成果を研究概要集等として刊行したいと考えています。本センターの学びの「歴史づくり」をしていくことが、次のステップにつながるからです。そして、その成果の公開によって、今後の学生の皆さんの卒業研究の取組への参考・励みとなったり、様々なかたちで地域へ波及したりすることを期待しています。

地方創世時代にあって、本学習センターでは、社会の変化や新たなニーズに対応しながら、これからも地域の知の拠点としてその強みを十分に生かし、かつ活用されるよう、環境整備や運営等の工夫改善をすすめたいと考えています。

本年度もどうかよろしく願いいたします。

平成26年度2学期

卒業研究発表会を開催

平成27年2月8日(日)午後3時3分より、学習センター第一講義室において、平成26年度2学期学士論文発表会が学習センター主催、島根同窓会共催で開催されました。今回の発表は学士論文2題のみで、修士論文はありませんでした。

会場にはいずれも指導教員となられた足立悦男客員教員(前所長)が、論文完成までの取り組みを報告され、本部の審査も無事に終了しての発表であるとともに、いずれも好評であったと話された。

会場には、同窓会が参加を呼びかけて、同窓会員、卒業生、新たに研究発表に取り組む在学生、論文発表に関心を持たれている方等、総勢20人余人が熱心に発表に聴き入っていました。

お二人の発表要旨を会報掲載用に要約して頂きましたので、以下に掲載します。

私の卒業研究①

「中世連歌と現代連歌の比較研究」

人間と文化コース 知野見 孝信



はじめに

『古今和歌集』には「やまと歌は、人の心を種として、万の言の葉とぞ成れりける。力をも入れずして天地を動かす」という仮名序があり、このはじまりの一文はよく知られている。

翻って「和歌」と同じような文学形態をもつ「連歌」には「天地を動かす」ほどの力の存在はあったのか、無かったのか。室町期を最盛期とした「連歌」は現代においては完全にその姿を消して終わったのか。そういったことについて人間と

文化コースで学んだことの総仕上げのつもりでこの「卒業研究」に取り組んだ。

さて今回の私の卒業研究論文である「中世連歌と現代連歌の比較研究」には、「和歌」と「連歌」の二つを比較対照研究することと、その歴史、そしてその起こりと衰退、さらにそれにまつわる事項なども併せて取り組んだが、ここではその中でも特に記述しておきたい「中世連歌と現代連歌比較研究」の三点だけを記しておく。それでは以下に、実際の作品を載せてこれを記す。

中世連歌 v s 現代連歌 (レッツ連歌)

①女性の存在が無い(堂上・地下) v s 老若男女(犬の子や猫の子までOK) 中世連歌では女性の存在が無かった。だから連歌の作品も見ることができない。(なぜ女性の存在が無かったか?これについては「卒業研究発表会」の場で述べたので、ここでは紙面の関係上割愛する)

現代連歌である(レッツ連歌)は男女混交、そして以下の作品のように犬の子や猫の子までもが連歌を楽しんでいる。

初めての人間ドックにビビる父上から下から管を通され (大田) 柴 わん子

ジイさんの引き出し開けた好奇心セピア色した美女がニッコリ (出雲) 飯塚 猫の子

更におまけとしてもう二句

町おこし実行委員やりとげてミスJAをみごと射止める

(松江) 川津 蛙

加勢もすれば仲裁もする一票になるかならぬか見極めて

(松江) 松田 とらお

②使われることばは文語のみ v s 使われることばは「ことばのデパート」

雪ながら山本かすむ夕べかな行く水とほく梅にほふさと

山ふかき里やあらしに送るらんなれぬすまひぞさびしさもうき

以上2句は『水無瀬三吟』

寝ていてもなあにと返事する私パスワード付きログインID

(松江) 岩田 正之

猪の親子に一度芋をやり恩返しには何ごすだアかア

(雲南) 佐藤 風子

造り酒屋に婿入りをするアラフオーの手練手管に惑わされ

(大田) 丸山 葛堂

言い返さぬと気の済まぬタチセールス顧客名簿の*印

(益田) 石田 三章

いつも座れるバスが満員学際にAKBがやって来る

(松江) 森広 典子

予報では今年も暑い西日本皿屋敷ってワイルドだぜえ

(益田) 石田三章

現代連歌であるレッツ連歌にはひらがな、カタカナ、漢字は勿論、このようなアルファベットや出雲弁といったような方言、四字熟語や和製英語、更にはパソコンで使うような特殊記号や人気アイドル名、現代の流行語などなど、当に「ことばのデパート」である。

③多くの作法や決まり事 v s 常識的な決まり事。

中世連歌には、例えば「懐紙」という和紙に句を記載する場合、これには明文化された多くの決まり事があった。然し現代連歌（レッツ連歌）には、常識的な決まり事、例えば他人を誹謗中傷したりしないという「決まり事」はあるが、もちろんそれが明文化などなされているものではない。

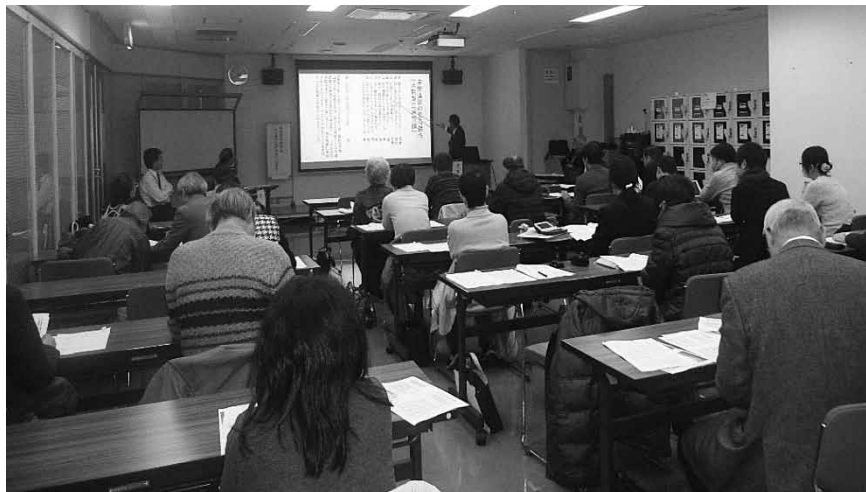
まとめ

中世に盛んとなった連歌だが、それにはそうなる訳があった。（戦国時代。連歌師の存在）そして現代においては山陰の地より古代ハスが蘇ったように「レッツ連歌」として、『古今和歌集』に秘められた力以上の力として、確実に天地を動かし続けている。

おわりに

「卒業研究」を為すということについては、放送大学へ入ったときから強い憧れのようなものがあつた。然し当初の私には只の憧れの思いでしかなく、何を為すかが分らなかったが、今日最後までご指導いただいた足立先生より「レッツ連歌というのがあるので、やってみられたらどうですか」というご提示をいただき、私の「卒業研究」のテーマが決まった。

今ここに全てを為し終えた、感慨と感激とが再び新たとなって蘇った。これから「放送大学卒業」を目指される方には、一人でも多く「卒業研究」に取り組み、この達成感と感激とを味わって欲しいと願っている。



学士卒業研究発表会にて報告風景

私の卒業研究②

—卒業研究を経験して—

心理と教育コース 柴田かおる



「幼児期に読んだ絵本が人に与える心理的影響の一考察」というテーマで、卒業研究をさせていただいた。心の中に芽生えた疑問に何かの答えが見つかるかもしれない、という可能性と折角大学生になったのなら卒業研究までやってみたい、という気持ちだけで臨んだ研究だった。

ぼんやりと「こんなことをしてみたい」といった感じから、少しずつ形になっていくのが不思議な感覚だった。担当教官の森先生からやるべきことを教示いただき、クリアするごとに次の段階へ進むためのヒントをいただきながら進んでいった。何より不思議だったのは、ひとりで考えているとすぐに立ち止まってしまうのに、先生と話をすると「できる」気になり、少しずつ進んで行けることだった。

まず、先行研究を学ぶため類似の研究論文を探し読むことから始まり、調査方法の決定。アンケート調査とインタビュー調査のふたつの方法から、成人した読み手が幼少期に読んだあるいは読んでもらった絵本および児童文学が、人の心に残す心理的影響について考察を試みることにした。アンケートから心に残った印象をポジティブイメージとネガティブイメージに分類し、それをさらに細分類化し、第三者の分類と比較、その一致度からその信頼性を確保した。ポジティブイメージとネガティブイメージの分類者から一名ずつにインタビューを実施し、さらにその深層を読み取ることを試みた。

分類では、言葉の中に潜むその人の心の動きを読み取ることに着目した項目選びに悩み、それでも多くの回答を得られたことが研究に対する応援のように感じられ、頑張ることができた。またデータ分類のためのパソコン入力など家族の協力もあった。

インタビューでは実施する環境がいかに大切であるかを学んだ。対象者の方の心の深層に迫るには質問項目の吟味はもちろんだが、その思いを共有共感できる場所、時間が重要であると感じた。稚拙なインタビューであったと思うが、それでも何かが見えてくるといった感覚を少しでも味わうことができたことは幸せであった。

結果は、アンケート対象者に偏りはあるもののポジティブイメージが7割を占め、また多くは食べ物との関連があり、食べ物イコール幸福感につながっていると感じた。インタビューでは、対象者それぞれにキーワードを見出すことができた。それはその方のさまざまな場面で生きているように感じられた。

ひとつの研究は次の研究を生み出す原動力になるということもわかった。反省は手法を変えたり、テーマ自体を違う角度で見るヒントになったりする。研究を始めたばかりの時に先生に言われた「この一回しかないと思っているかもしれないけれど、これからもっといろいろな研究をすることができ

るようになるよ。」という言葉が研究を終えた時に心の中に浮かんだ。その時は信じられなかったけれど、自分の「これから」を信じたい気持ちになった。

最後に、本研究でお世話になったすべての方に深く感謝申し上げる。担当教官の森先生、足立先生には、研究途中で身体のアクシデントのあった私を心身ともにバックアップしていただきながらご指導いただいた。また、多くの声をいただいたアンケート協力者、貴重なお時間をいただいたインタビュー者、島根学習センターの皆様、島根大学図書館のスタッフの方々。そして、こんなわたしをずっと見守り支えてくれた家族に。本当にありがとうございました。

平成26年度第2学期面接授業に参加して

～海士町での感動を皆さんに！～

副会長 石川直樹



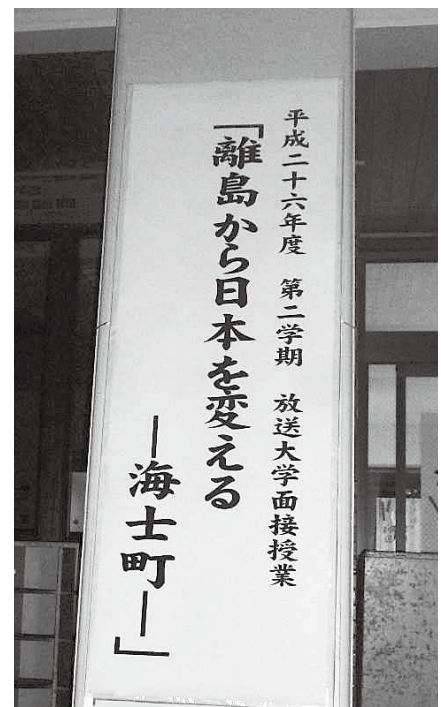
昨年10月、放送大学の授業「離島から日本を変える ―海士町―」に共修生として参加してきました。とても感動的な内容でしたので、その一端をご紹介します。

授業は産業、教育、歴史、ジオパークなどいくつかの分野で構成され、実際に現地を見ながら講義を受けました。海士町が大きく変わったきっかけは、財政悪化でしたが、超過疎の進行、少子高齢化など、それ以外のことについても、危機的状況がありました。このような中で、平成14

年5月に行われた選挙で地縁・血縁を拒否した町民の選択により誕生した現在の町長とそれを支える職員が平成の大合併を拒絶し、改革を進めてきたからでした。

このような改革の根底にあるものは町長の言葉にもあった「本気度」を行政が自ら率先して実施したことにあると思います。それが町長だけでなく、一般の職員が率先して実施したところにあります。職員が自ら賃金カットを申し出て、反対する町長を説得して実施したことからもわかります。日本で一番賃金の低い自治体となったそうです。今回、講義を受けたさまざまな取り組みの中から、最も印象に残った一つが「島前高校魅力化プロジェクト」を通じた教育への取り組みです。

偶然ですが、5～6年ほど前に、海士町の幹部や職員の方と話す機会があり、そのときのメンバーの圧倒的なパワーに驚いた記憶があります。その内容は産業の話が中心だったように記憶していますが、その中で島前高校が生徒の減少で危機的な状況にあるという話があり、この時は詳細わかりませんでした。印象に残ったのを覚えています。



面接授業の講演を伝える案内板



山内道雄町長

その危機的な状況にあった高校が「島前高校魅力化プロジェクト」により、今大きく変わってきていることに再び驚きました。クラスも増え、生徒が全国から来るようになり、一流大学への合格者もでるようになったそうです。

今回の授業では、プロジェクトの具体的な取り組みを知ることができました。それは現状を過疎の島の教育の再生ではなく、日本の未来の縮図ととらえ、地域の特性を生かした、グローバルな人材の育成をめざし具体的に実践していることです。「ピンチを教育改革と持続可能な未来づくりを進めるチャンス」にしようと、地域総がかりの体制で取り組まれ、一流の専門家を講師にした特徴あるプログラムの実施や「夢ゼミ」や「島留学」などでキャリア

教育、異文化や多様性を学ぶ教育が実際に行われています。本当の成果は育った生徒たちの今後を待つことになると思いますが、世界に通じる多様な人材の育成が現実には超過疎の島で実施できていることが驚きです。折しもこの時期は、同じ島ですが、海士町と対局にある世界の有数の大都会シンガポールの大学へ出かけて地域の現状や将来を学んで来る修学旅行の最中でもありました。



大江産業課長の地域戦略を学ぶ授業

しかし、なぜそれがここで出来たのだろうか

かと自分なりに考えて見ました。確かに行政の本気度とそれを支えた地域の人たち、牽引した外からの若者の行動力がありました。そこにもう一つ加えたいものがあります。ジオパークへの登録や島の歴史など、ここにしかない島の特徴です。火山性の痩せた土地でもしたたかに生きる動植物、また人々の記憶の奥深くに刻まれた長い交流の歴史からくる「柔軟な対応力」などです。これらが一つになって初めて改革が出来たのではと思います。「失敗した取り組みはありませんか？」との質問に担当者は、「失敗はありません。すべてがまだ途中ですから。あゆみを止めたときに失敗です。」



実習では海士民謡「きんにゃもにゃ」踊りに挑戦する学生

と言われたのが印象的でした。海士町にとって失敗は町の消滅を意味するものですから。

昨年の施政方針演説で安倍首相が海士町の取り組み取り上げたほど注目されています。いずれにしても、まだ様々な課題がありますが「日本を変える」いろいろな試みがここで行われていることは事実です。

皆さんも是非一度、海士町を体験してみてください。

平成26年度第1学期卒業生からの声

学士となった「四人目の子供」

人間と文化コース 知野見 孝信



秋の光が柔らかかにさし込んで来る部屋で二人向き合い、まるで恋人のようにいろんなことを語り合っていたのだが、いきなりお母さんが「四人目の子供まで大学に行かせるとは思わなかったネー」と言い出した。我が家には英太君と盛二君と衣通子ちゃんと、三人しか子供がいなかったのに、もしかしてお母さん、どこぞで子供作ったんかいな（あの歳で、あの体型だからまさか子供も出来んだろうがな一）と思っていたら、なんと四人目の子供とは私のことだった。平成25年、穏やかな秋の日のことだった。

あれから月日が流れ、単位修得も順調にすすみ、夢にまでみていた「放送大学」の卒業を迎えることができた。

「NHKホールでの卒業式の様子が分らんので(NHKホールでの卒業式に行かない人も居るので)今回貴方はNHKホールの卒業式に出席するみたいだから、その様子を書いて来て欲しい」と竹下会長から申し渡されたので、「NHKホールでの卒業式」の様子を以下にエッセイ風に書いてみました。

のぞみ12号は新富士辺りを通過している。晴れていれば富士山が見えるのだが、生憎の空模様。(帰りの車窓には、一杯に広がった青空にクッキリと、それは素晴らしい、日本一の雄姿が見えました)

「放送大学の卒業式には新幹線に乗って、成雄ちゃんが居るパレスホテルで泊まろうや」。いつしか二人が交わす言葉は、「放送大学卒業のハレのその日」には新幹線に乗って、甥が勤めている東京パレスホテルで、東京の一日を最大の贅沢な一日にしようという互いの気分となっていた。缶ビールを開けると爽やかなアワ粒がシュワーと喉を下ってゆく、そして一気に東京駅へ着いた。

一夜を過ごした東京パレスホテルは皇居を真正面に望む位置にある。18階1804の部屋からは国会議事堂や東京タワーがそこに観える。まるで社長さんか、超有名な人になったような気分になっている時間もなく、慌ただしく着替えて渋谷区神南2-2-1にあるNHKホールへと向かった。先に到着されていた佐々所長先生、三島事務長さんより暖かい祝福のことばをいただいた。

「ただ今から放送大学学位授与式を行います」。11時ピッタリに始まった学位授与式。2,000人以上は集まったであろう今日の式典。こんなにも多くの人々が放送大学で学んでいるのだと改めて学ぶことの幸せを思う。今日のこの学位授与式を、以下式次第を追いながら私の生涯の記憶として残しておきたい。

①「国歌演奏」。日本人の大方の記憶からは忘れ去られてしまったような国歌。これに接する機会が無いのか、あるいは必要としないのか、兎に角50年ぶりくらいに歌ったこの感激。

②〇〇政務官。大臣官房〇〇氏。〇〇局長。雲の上のような数多の来賓の方々を紹介が続く。

③「学位記授与」には、代表の三島さんという女(ひと)が壇上に上がり、岡部学長より学位記を受けた。

④卒業認定通知を受け取った2月下旬、その日から数日間、私はテレビばかりを見て何も為す気が起こらなかった。目標としていた「放送大学卒業」をやり遂げたという安堵感と、自分は努力してこの歳で、誰にもできないことを為し遂げたという一寸傲慢な気分と甘えがそうさせていたと思う。

続く「学長式辞」で岡部学長は「三つのことば」ということを話され、今回の卒業生の中には、北海道の97歳の方も居るということをお聞きされた。何と私は、たった今学長が話された、その一つである「自分を褒めてほしい」ということを、いち早くチャッカリと自分自身に採用して、自分を褒めすぎて

いたのであった。そんな97歳の方からすれば、本当に自分の年齢などまだまだ「洩垂れ小僧」でしかないのに……。

岡部学長はまた、二番目のことばとして「放送大学を卒業したということに、誇りを持って欲しい」と述べられた。「放送大学に入るには入学試験がないが、これを卒業することは難しいことである」学長のこのことばには、今まで頑張ってきた今日のこの卒業を迎えた誰もが納得し、感激しているはずだ。

「本学で学んだことを社会で生かしてほしい」三つ目のことばがこれだった。そして最後に高杉晋作の言葉だといって「憂うべきは何事も為さぬことである」と締めくくられた。

⑤先ほど紹介された、雲の上のような方々の「来賓祝辞」である。

⑥「卒業生・修了生謝辞」では、小学生の時から学校というのは好きではなかったが、母親が認知症になったことで放送大学へ入って勉強しようと思ったという、これは北海道の方だったが、孫と同年のような学友から数学を教えていただいたことなど、学びの苦労を話されたのが印象に残った。そしてこのたび卒業ができたことが今までの人生に無い、充実感と達成感が得られたと結んでいた。まさに私達は放送大学で学んだからできたことではなかろうか。

⑦名誉学生・成績優秀学生の人たちが表彰を受ける「学長表彰」。壇上の字幕には四十名ほどの名前が映しだされている。みんな一生懸命に努力をされた人達である。

憧れの島内祐子先生に会えたぞ

島内祐子先生のお姿がロビー付近で見えた。（これは式典が全て終わってからのこと）島内祐子先生は面接授業で各地へ行って学ぶ友達どうして話をしても、誰もから人気があった。文学全般の深遠な内容を、我々初学者が学ぶについても実に平明にわかりやすくご講義いただいたこと、それに先生の書かれるご文章の力、先生のご人格、お人柄が誰もにそう思させたのだと思う。実は先生には私の卒業研究「中世連歌と現代連歌の比較研究」の審査員として昨年末ご来松いただく予定であったが、ご多忙中ということでそれが叶わなかったという事もあったし、京都で行われた先生の面接授業の聴講を申し込んだのだが、定員オーバーであっさりと落選したということもあり、あこがれの先生のお一人であった。

先ほど「学長表彰」で卒業生表彰があった後「放送大学優秀授業賞」の表彰をうけられたばかりのところであったが、先生のお姿をお見受けできた嬉しさで、ご受賞のお祝いを申し上げたら、ご丁寧な所作でお応えいただいた。

私は今回先生が受賞された「和歌文学の世界」他の教科以外にも、先生の大方向どの教科を履修させていただいた。そしてその一つ一つが今でもありありと印象深く残っている。その島内祐子先生が今回、学生評価による「放送大学優秀授業賞」をお受けになられたことが私自身の大きな喜びでもあった。

⑧なんと「学歌斉唱」では、壇上で指揮をするのは岡部学長である。放送授業で「コンピュータの仕組み」を学んだが、やっぱりあんな難しいことを安々と説かれるなどということ更に、指揮棒を振ることさえも楽々と熟されるなど、スゴ技をお持ちの方なのである。

⑨一時間に亘る式典が終わり「閉式の辞」となった。その間私は放送大学で学んできた日々のこと、イケズばかりして勉強もせずにテニヤワズ見だった子供時代のこと、そんな過ぎた私の人生までもが様々に思い出されて、いつしか胸が熱くなっていた。そういえば佐藤一齊はこんなことを言っていたなあ。「少くして学べば壮にして為すあり。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」ああ放送大学で学んでよかった！

平成27年3月21日。こうして我が家の四人目の子供は67歳にして「学士」となった。

会員リレートーク④

『精神鑑定書から学ぶ』

土谷 章子



私は2010年に「日本心理学会認定心理士」に認定されました。今は裁判所に提出された精神鑑定書を読んで学んでいます。ここでは二つを紹介します

「永山則夫精神鑑定書」

連続殺人事件で死刑となった「永山則夫精神鑑定書」で、石川義博医学博士が278日かけて鑑定しています。この石川鑑定はPTSDの理論を用いて被告人を分析した日本で最初の鑑定書です。則夫は「何かに対して強いうらみが心の中で渦巻いてどうしようもない」と自覚。鑑定人の調査でもこの犯罪の主因をなした恨みや増悪は、人生早期の体験に根ざすものと明らかにしています。

永山則夫の苦悩は、彼を包んだ「家族」との関係に密接にかかわっています。石川義博医学博士は永山の行動と脳波検査を総括し、一部の脳波の発達が他に比べて何らかの原因で遅滞し、発達異常を来したとし、生い立ちの劣悪な環境条件と共にこれを既定し、心身の病的緊張状態から衝動の爆発を惹起しやすくした可能性があると述べています。人生早期に身につけねばならぬ「基本的信頼感」が育っていないことが指摘されています。

獄中で永山則夫が出版した「無知の涙」「螺旋」「土提」「木橋」を読み、石川鑑定書を再度読みました。残念ながらこの石川鑑定書は正式に採用されませんでした。当時、このPTSDの理論が認識されていなかった為だとも言われています

『少年A神戸連続児童殺傷家裁審判「決定(判決)」全文公表』

今年の5月号の文芸春秋に掲載された『少年A神戸連続児童殺傷家裁審判「決定(判決)」全文公表』です。1997年の審判決定の要旨公表では、全文にあった生育歴の大半と精神鑑定主文の重要な部分が抜け落ちていたことです。十年経てそのことがわかり、今回全文公表となりました。事件を担当した井垣康弘元判事が「遅きに失したかも知れないが、全文を読み、教訓をくみ取ってほしい」との言葉とともに全文公開に応じて下さったそうです。

この神戸事件の決定全文の生育歴では、「一歳までの母子一体の関係の時期が少年に最低限の満足を与えていなかった疑いがある」と愛着障害の疑いが指摘されています。母の厳しい叱責を受け続け、様子がおかしくなった少年の内面に周囲の誰も踏み込めないまま、いくつかの兆候や機会がありながらも適切な介入がなされませんでした。

懲役13年とする手記は痛ましいものです。自分では抑えられない衝動を「魔物」と認識し、その人格的イメージを自ら「酒鬼薔薇聖斗」と名付け、責任を分離しようとしました。

手記の最後の「人の世の旅路の半ば、ふと気がつくと、俺は真っ直ぐな道を見失い、暗い森に迷い込んでいた」に涙があふれ出ました。被害者となられたお子さん方の保護者の本も合わせて読みました。人の心を知ることのむずかしさと専門分析の方法を学ぶ機会となりました。

学習センターサロン 作文の時間発表作品 ①

今回より広報部より作文の時間主宰の足立悦男先生と、同窓会員が発表された作品の掲載をご了解頂いた方より輪番にて連載します。

「おしゃべり会と作文の時間」

平成27年1月10日 発表者 安部 保江



月1回のこの時間を私は楽しみにしている。失礼を顧みず一こと言わせていただければ、ご指導を頂いている足立先生の飾らないお人柄と、研究者としての論理的思考や、文学者らしい情緒的な温かさ、このバランスの良さが学生たちを牽きつけていると思う。80年を生きてきた私にとって、この放送大学での先生と学生、事務局のみなさんとの出会いは、毎日を唯ひたすら楽しいものにしている。

おしゃべり会では、その場で出た話題に聞き入ったり、質問したり、自分の話を聞いてもらったり、どんな話題にも興味津々である。

作文の時間は、今度は何を書こうかな？と前日になって考えることもあるが、当日の朝ぎりぎりになって思いついたまま、取りとめもないことを書くことの方がいつものパターンである。少々の反省もしながら今日に至っている。

正月2日の夜、Eテレで日本人論を放送していた。見たい番組だったのに、つい見損なって最後のあたりになって漸く気が付いた。さまざまな分野の専門家が集まり、それぞれが薦める日本人論の名著を紹介していた。

精神科の斉藤環氏は、河合隼雄の『空中構造と日本の深層』を、中沢新一氏は、鈴木大拙の『日本的靈性』をとりあげていた。その中で、

人には分別と無分別とがあるが、それを乗り越したところの無分別智を磨くことこそ大切だ。

無分別智を以って生ききった人は、妙好人、石見の浅原才一だった。妙好人とは、浄土真宗の篤信家のことで、その代表とも言える人が浅原才一だとのことである。など、

靈性とは、分別と無分別とそれらを取っ払って、魂の深層にある無分別智というものなのか???放送時間が終わりに近かったので分からないままで終わり残念だった。

『空中構造と日本の深層』も『日本的靈性』この本も、私は持っていないし当然読んでいない。興味がある内容なので知りたいと思っている。

最近まで妙好人ということについて私は全く知らなかったし、浅原才一のことも知らなかったが、この放送大学で今年の“こころを考える”サークルでの知野見さんの講義で初めて教わったことであった。

中部地域第1回市民公開講座を開催

5月23日(土)午後1時より出雲市にて中部地域第1回市民公開講座を同窓会主催、出雲市・学習センター共催にて開催した。行政との共催は同窓会では初めての開催となった。

今回の公開市民公開講座は、消費者保護基本法(消費者基本法の前身)が1963年5月に施行され20周年を機に、1988年より毎年5月を「消費者月間」とされ、消費者、事業者、行政が一体となって、消費者問題に関する教育・啓発などの事業を集中的に取り組んでいる関連企画として開催した。当日は、放送大学から同窓会、学習センター、出雲市民25人が出席して出雲市役所庁舎「くにびきホール」にて行った。



中部地域第一回市民公開講座

第1部は、伊東直人さん(中国経済産業局消費経済課製品安全室)による、「身近な製品事故」と題し、日常生活で遭遇する身の回りの製品を安全に使用するために、製品重大事故が発生していて、電気製品、燃焼器具、その他の発生事案では、①製品の欠陥や不具合から発生していて、加湿器、エアコンでの事故。②古い製品仕様での事故。③誤った使用や不注意での事故例を紹介し、製品の事故は日頃からの心がけで防ぐことが可能であり、国の安全基準を満たしている製品はP Sマークが貼付されているので指定品目に注意すること。

続いて馬場健聡さん(独立行政法人製品評価技術基盤機構中国支所・N I T E)による、製品安全業務と事故の事例として①加熱調理による突沸による事故例(電子レンジ・ガスコンロ)、②カセットコンロの事故例、③ガス接続具の事故例、④配線器具の事故例、⑤電池の事故例について、具体的な映像をもとに注意を喚起された。

第2部は、竹下隆さん(島根県消費者センター消費生活専門相談員・同窓会理事)による県内での「身近な相談事例からみる見守り活動」として、高齢者の消費者被害の実例をもとにして特殊詐欺への対応として①電話による名義貸し詐欺、②医療費などの還付金詐欺、③オレオレ詐欺について報告され、最後に「見守り」と「気づき」により認知症等高齢者の被害を防ごう。自分だけでなく地域の中で身近に遭遇する事案に注意を呼びかけた。

第1回中部地域卒業生・在学生との懇談会を開催

第3部は、同窓会と島根学習センターによる、第1回中部地域卒業生・在学生との懇談会は石川直樹副会長の司会にて、竹下同窓会会長、佐々学習センター所長による開催挨拶に続き、出席者より放送大学・島根同窓会に対する意見・要望について懇談した。

在学生より履修方法や学習方法について助言を求められ、会員より自身の経験を話した。



第一回会員学生懇談会

放送大学同窓会連合会「創立25周年記念シンポジウム」での発言要旨

島根同窓会 竹下靖彦

I、島根同窓会活動の特徴

- 1) 人口の少ない県であることを逆手に取った活動の推進。
 - ①単位認定試験、面接授業、学生研修旅行、サロン、セミナー等で交流できる。
 - ②地方では学生数が少数のため、人的交流が深く都市部より有利な条件。
 - ③会員の40%弱は継続入学している学生のため、顔馴染みが多く在籍していること
- 2) キャッチフレーズは最後尾から先端を目指す同窓会活動の構築。

数は力なりを追及。それには卒業生・学生の要求に応える活動を如何に展開するか。

 - ①同窓会活動を通じて学習センターの発展に寄与している姿が見える活動へ
 - ②会員の増加については、総会で目標を定め役員が手分けして目的意識的に取り組む。
- 3) 役員会の果たすべき役割と個人の役割を明確に。
 - ①役員会の年代構成は中長期的に立った就任へ。継続して任務を引き継げる体制確立。
 - ②役員相互の良好な人間関係の樹立。その前提は信頼関係樹立と、各役員の意欲。
 - ③役員会の運営は民主的運営に徹する。トップダウンの回避。
 - ④役員会は楽しく、新情報を共有できる場に。
 - ⑤役員会はマンネリに陥らず、絶えず新たな事業へ果敢に遂行へ。
- 4) 学習センターとの連携強化は、定期的に学習センターと同窓会との協議を実施。双方の年間行事予定の提示で、効率の良い共催事業の取り組み
 - (1)学位記授与式、入学者のつどい、卒業研究発表会、面接授業などに協力支援。
 - ①学位記授与式及び卒業研究発表会への同窓生の参加協力と受付、印刷物の配布
 - ②公開講座、だんだんサロン、だんだんセミナー開催に伴う参加協力の要請活動
 - (2)同窓会の開催事業には可能な限り、学習センターとの共催ならびに後援へ
- 5) サークル学友会との行事連携策。

学生にとってサークル学友会は必須条件。特に卒業を目指さない学生には学友会活動へ

II、現在直面している問題点は

- (1)卒業が目標である場合は、卒業後では放送大学とは疎遠となり同窓会の存在認識が欠如。

同窓会会員の入会は新卒業生で、卒業後の年数が経過すれば入会は皆無となる
- (2)会議室不足で、土日における同窓会、学生の交流活動に最大の障害。要は夜間の開放が鍵。



シンポジウムで発言する竹下会長

～同窓会よりお知らせとお願いです～

第2刷の会員名簿お届けします

遅くなりましたが、第2次の会員名簿を同封しました。記載内容は「入会申込書」での情報について「開示同意事項」のみの記載となっています。同意されない事項は未公表です。もし記載内容に誤りがございましたら、お手数ですが竹下までご連絡下さい。

- ①あくまでも個人情報ですので取り扱いには充分ご配慮下さい。
- ②住所などご連絡先が変更となった場合は、必ず竹下までご連絡して下さい。
- ③FAX番号が未記載の方は、お手数ですがお知らせ下さい。

ただし開示に不同意される場合は、その旨ご指示下さい。同窓会より連絡を要する場合もありますので、お手数ですが竹下会長までお知らせ下さい。郵送料節減にご協力をお願いします。

新役員の紹介



平成二十六年年度全科履修生を卒業したばかりの佐藤ひばりです。放送大学同窓会のために微力ではありますが協力したいと思いますのでよろしくお願ひします。

新監事 佐藤ひばりさん



「島根同窓会」発足三年目という大事な揺籃期、役員に選任されました。パワフルな竹下会長、皆さんと共に結束、愉しくやっています。

新監事 知野見孝信さん

第2期役員紹介と担当部（◎印部長）

会 長	竹下 靖彦	(再)	統括
副会長	石川 直樹	(再)	◎情報部長、◎東部地域部長、広報部
同	増原 久子	(再)	◎会員名簿部長、◎地域貢献部長、中部地域部
同	琴野 正義	(再)	◎西部地域部長、情報部
理 事	金田 文子	(再)	県外地域部
同	安部 保江	(新)	事務局、広報部
同	森脇エイ子	(再)	事務局、会計担当
同	宅和 由男	(再)	広報部、東部地域部
同	川上 美里	(再)	会員名簿、地域貢献部、東部地域部
同	小汀 政徳	(新)	◎広報部長、情報部、中部地域部
同	竹下 隆	(再)	◎中部地域部長、地域貢献部、広報部
同	板倉 直之	(新)	中部地域部
監 事	佐藤ひばり	(新)	◎県外地域部長
同	知野見孝信	(新)	広報部

◆同窓会の活動報告◆

(2015年2月～6月)

2月08日(日) 公開講座(若鳥取センター長)
 2月08日(日) 2学期卒業研究発表会
 2月14日(土) 第8回役員会開催
 2月28日(土) 中部地域公開講座打合わせ
 3月07日(土) 第9回役員会開催
 3月11日(水) 第3回総会開催案内状発送
 3月13日(金) 2学期卒業式行事案内発送
 3月29日(日) 2学期学位記授与式
 3月29日(日) 2学期卒業を祝う会開催
 4月06日(月) 第3回通常総会案内状発送
 4月09日(日) 出雲市公開講座打合わせ

4月10日(金) 会計監査
 4月11日(土) 第10回役員会開催
 4月22日(水) 第3回通常総会資料印刷
 4月25日(土) 第3回総会記念講演会開催
 4月25日(土) 第3回通常総会開催
 5月09日(土)～10日(日)
 同窓会連合会第3回中四国交流会(愛媛)
 5月16日(土) 第11回役員会開催
 5月16日(土) 第6回広報部会開催
 5月23日(土) 第1回中部地域公開講座開催
 5月23日(土) 第1回中部地域懇談会開催
 5月30日(土)～31日(日)
 同窓会連合会第18回総会(千葉・幕張)
 6月13日(土) 第12回役員会開催
 6月13日(土) 第7回広報部会開催

平成27年度1学期学位記授与式・卒業を祝う会

日 時 平成27年9月27日(日) 11:00～16:00

会 場 松江市 島根学習センター「3階第一講義室」

○学位記授与式 11:00～12:00 (主催:学習センター・共催:島根同窓会)

○卒業を祝う会 12:00～13:30 (主催:島根同窓会・共催:学習センター)

準備の都合上、お手数ですが出席については学習センターまでご連絡下さい

(電話/0852-28-5500 FAX/0852-28-1800)

◆編集後記◆

最近、地震や噴火など自然の力の凄さを感じさせられる現象が続けて起る一方で、事件や事故のニュースは人間のエゴを感じさせられることが少なくありません。いずれも、なんとなく気持ちを不安にさせるものです。

そんな中で地元出身のテニスの錦織選手の活躍は心躍るものがあります。近いうちに「必ずやってくれる」そんな期待を抱かせてくれます。

また、つい最近では、「松江城が国宝に」というさらに嬉しいニュースが飛び込んできました。

報道によりますと、決めてとなったのは調査研究委員会が発見・発表した「祈禱札」であったそうです。関係者の熱意はもちろんですが、やはり地道な研究の成果が決定打となったようです。大きな出来事の陰には地道な研究の存在があったということだと思います。

学びを志すものとしては、気持ちが少し前向きになる思いがしました。

今回のような大きな成果を出すことはできませんが、自分の関心がある分野の研究が少しでも関係するとすれば、喜ばしいことです。

そんなことを励みに、これからも学んでいこうと思います。(な)